

平成30年度 檜山小学校 学校評価

| めざす子ども像 | 本年度の重点 | 具体的な子供の姿 (評価内容) | 具体的な取組 | 自己評価 | | | 達成状況 | 改善策 | 関係者評価 |
|------------------------|--|---|---|------|--|---|--|--|---|
| | | | | 教職員 | 保護者 | 児童(3年以上) | | | 意見等 |
| やさしい子(徳) | 檜山の『ひ』プロジェクト ① 道徳教育の充実 ② 児童理解、教育相談の充実 ③ 少人数のよさを生かした教育 ④ 凡事徹底 | よりよい生活の実現のために、互いの考えを認め合いながら、学ぼうとする。①② | 道徳の時間を中心に、各教科の学習において、児童がよりよい生活の実現のために、互いの考えを認め合い、学べるように工夫する。 | ◎ | ○ | ◎ | ○教職員と児童の評価が高い。これは、道徳の時間に取り組んだ話し合い活動が他教科の学習においても生かされ、互いの考えを認め合い学べるようになってきているからだと思われる。反面保護者の評価がやや低かったのは、このような姿は集団の中でしか見られないため、評価しにくかったのではないかとと思われる。 | ○現在の取組を全職員で継続しつつ、更に互いの考えを認め合い学ぶことができるようにしていく。 ○公開日等を通して、児童が互いの考えを認め合い学ぶ姿を見せよう。 | ○学校が楽しいという回答が子ども、保護者に大変多く、楽しくないという回答がなかった。先生たちに感謝したい。 ○どの項目もわりと高い評価でよい。素晴らしい改善策と思う。 ○児童は、他から認められることが意欲につながる。学校は楽しい場となっている。とてもよい学級づくりができています。 ○子どもたちが考えを認め合い、良い授業がされていた。同和教育発表会参観者からも良い意見が多く出ていた。 ○一人一人の児童の名前や顔が見えて、その子のやる気やちょっと足りない所など細かく見れるメリットがあると思う。 △全体的に教職員、児童とも大変努力され、目標達成に向け頑張られているが、下段の内容も含めて、一部児童に「やらされている」という思いはないか。児童がみんな同一レベルになれば、大人が安心するとかがないか。できない子どもの子の個性として評価されるのか。 ・少人数のよさが生かされている。学校が楽しいと感じている子どもが多く、成果が十分にみられる。そうは思わない子への支援も必要である。 ・理想的な子どもの姿であるため、家庭でも学校と連携を取りつつ取り組んでいきたい。その為、重点目標を共有する等工夫を図って欲しい。 |
| | | 全校児童が仲良く過ごしやすいようになるために、進んで新しい考えや方法を求める。③ | 児童会活動のねらいを明確にし、児童が主体的に企画・運営する場を工夫できるように支援する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○保護者や児童の評価が高い。これは、どの委員会も工夫して活動しており、児童の満足感・達成感があつたと思われる。反面教職員の評価がやや低かったのは、一部の児童の意見で活動が進んでいたことがあつたからだと思われる。 | ○児童会活動を企画運営する児童には、委員会で話し合う内容を事前に知らせておき、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。 | |
| | | 自分が認められていると感じ、明るく意欲的に学校生活を送る。④ | 教育相談等の実施や少人数学級の良さを生かして、子ども一人一人の理解を深め、個に応じた支援をする。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○三者とも評価が高い。これは、教職員と保護者が連携をとりながら児童理解や個に応じた支援を工夫することができ、児童一人一人が毎日楽しく学校に通うことができたからだではないかと思われる。 | ○現在の取組を全職員で継続しつつ、児童一人一人の良い所を見つけ認めていく。 | |
| やる気いっぱい最後までがんばる子(体) | 檜山の『や』プロジェクト ① 計画的、継続的な体力づくり ② 計画的、継続的な健康づくり ③ 安全教育の充実、安全管理の徹底 ④ 自主的な児童会活動 | 進んで運動し、めあてに向かって最後までやり抜く。① | 縄跳び、マラソン、水泳などで自分のめあてをもたせ、授業や委員会活動の工夫を通して意欲をもって継続的に取り組めるようにする。 | ○ | ○ | ○ | ○体育は、めあてをもたせ意欲的に活動できるようにした。また、各行事に向けて委員会活動とも連携して意欲付けを行った。 ○水泳は、個のレベルに応じてめあてを自覚させ、意欲を持って取り組めるように支援した。また、縄跳びやマラソンなど体力作りでも委員会が中心となり、児童の創意工夫が活かされていた。 | ○係や委員会活動での自主的な活動の機会を作る。 ○各行事等で、めあて・取り組み・振り返りをし、児童が達成感を味わえるようにする。 ○各行事について学級便り等でお知らせし、家庭でも意欲付けをしてもらうようにする。 | ○体育祭では6年生のリーダーシップのもと、全校が一生懸命に取り組む成功に導いていた。 ○さわやかウィーク等、幼小中一斉の取組がAコース取組児童の成果につながっている。 ○1年生の読み語りを行って、入学から1年経ちみんな大きな声でできて、挨拶もきちんとしてできるようになってきています。楽しみです。 △学校ではできているが、校外ではまいち。大きな声で挨拶をする子どもあり、個人差がある。 △檜山の子はやさしいです。もっともっと元気をだしたい。 △体力作りに関して休暇中の課題も無理のない程度であってもよい。 ・基本的な生活習慣は、家庭教育が一番だと思うが、学校での学級活動においても指導をお願いしたい。 ・保護者が『△』であるのは、家庭での様子であると思う。家庭内での話し合い、家族が積極的に模範をみせる等、改善できるように継続して取り組むことが必要である。 |
| | | 健康で安全なくらしに心がけ、元氣よく生活する。②③ | さわやかウィークを家庭と協力して実施し、規則正しい生活習慣を身に付けられるようにする。また、安全なくらしについて、生活目標や安全指導を通して重点的に取り組む。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○結果の提示により、さらに伸ばすために頑張ろうという意欲も持たせることができた。 ○保護者の方へも協力をお願いすることができた。 ○脳さわやかデーでは、Aコースに取り組む児童が増えた。達成児童も増えている。特に高学年は良い傾向にある。 | ○各学級で問題意識を持って取り組んでもらう。また、学級懇談会などを通して保護者の方への協力も継続してお願いしていく。 ○必要のある児童へは個別に指導していく。 | |
| | | 基本的な生活習慣を身に付けている。④ | 生活目標を通して、気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣い、整理整頓、学校のきまり等が身につくような取組をする。 | ○ | △ | ○ | ○生活目標を意識して生活している反面、自分から行動するところまで到達していない児童もいる。 ○学校では、整理整頓・あいさつ・言葉遣いはできていると思われるが、保護者アンケートの結果を見ると、家庭ではそれらについて課題があるように思われる。 | ○気持ちの良い挨拶や正しい言葉遣い、整理整頓の指導を繰り返し行う。なぜそれが必要なのかということまで、発達段階に応じて学級活動等で指導し定着を図っていく。 | |
| 学びあい助け合い高めあう子(知) | 檜山の『ま』プロジェクト ① ねらい・課題を明確にした授業 ② 家庭学習の習慣化 ③ 基礎基本の定着 ④ 特別支援教育の推進 | 自分の考えをもって伝えたり、相手の考えを理解したりしながら話し合い、自分の考えを更に深める。① | 学習のねらいを達成するために、児童が主体的に学び合う授業づくりをする。 | ○ | ○ | ◎ | ○児童の評価が高いことから、児童の学習に対する取組への充実感が感じられる。今年度は、市教研大会や人権・同和教育指定事業などに向け、多くの方に授業を見てもらう機会も多く、自分たち自身で学び合う学習ができたという自負が自信につながったのではないかとと思われる。 | ○引き続き、教師は、授業のねらいを明確にもち、児童が考える主体となって友達と学び合えるような授業づくりをしていく。 | ○全体的に児童評価が高く、主体的に自分自身から学ぶ学習ができていると思う。一方、学習に対して一部の自信のない児童についての支援が必要であり、改善策は適切であると思う。 ○市教研授業では自分たち自身で学び合う学習ができていた。 ○同和教育発表大会の公開授業では主体的に学び合う姿が見られ、発表内容にも深まりがあった。 ○市教研や同和教育の公開授業において、積極的に発言する様子が外部の方からも評価された。 ○道徳の授業では、低学年でも自分の思いや意見をとてもはっきり発言できていた。 ○児童は本が好きで、読み聞かせを楽しんでいる。 △他者の意見に(肯定的にも否定的にも)どう向き合っていくのか、積極的になって欲しい。 ・学習の目標が無い児童が多い。そのため改善策の目標を持たせることは良い。 ・読書量は個人差が大きい。児童の興味ある本を選定して取り組みたい。 ・自ら学ぶ意欲や学ぶ力は、幼稚園の時から育む必要がある。 |
| | | 毎日、学年に応じた時間、丁寧に家庭学習に取り組む。(学年×10分以上)②③ | 家庭学習の手引きを活用しながら、家庭学習習慣の定着を図る。 | ○ | ○ | ○ | ○概ね良好な結果であり、昨年度からスタートした学期に1回の家庭学習パワーアップ週間の取組も定着してきている。一方で、家庭学習の取組に対する個人差もあり、宿題の見直し等個別の関わりが必要である。 | ○引き続き、家庭での学習環境づくりに努めてもらえるよう、「家庭学習の手引き」や「パワーアップ週間」の効果的な活用方法を考えていく。また、個別の関わりが必要な児童に対しては、家庭の協力も得ながら児童に合った家庭学習になるよう検討していく。 | |
| | | 学年に応じた基礎的・基本的な学力を身につけている。②③④ | スキルタイムや、漢字・計算道場の実施などを通して、一人一人の基礎的・基本的な学力の向上を支援する。 | ○ | ○ | ◎ | ○漢字・計算道場に向けて目標をもって継続的に取り組み、成果を得られた児童は達成感をもち、それが次の意欲へとつながっているのではないかとと思われる。一方で、学習に自信のない児童もいるため、個別の支援が必要である。 | ○個別の目標を持ち、児童の達成感につながるようにしていく。 ○授業の中で分からないことが分からないと言え、教え合える雰囲気や学習意欲の向上や内容の定着にもつながるため、授業づくりを工夫していく。 | |
| 学校図書館を利用し、読書に親しんでいる。②④ | 朝読書や読み語り、並行読書、家読の日の実施などの豊かな読書活動や図書館を利用した学習を推進する。 | ○ | ○ | ○ | ○児童は本が好きで、読み聞かせ等楽しんでいる。しかし、読書量については個人差が大きい。授業や委員会活動等での学校図書館教育により利用は増加しているが、貸し出し数の増加にはつながっていない。家庭でも、児童が読書をしている機会を目的としない保護者もいると思われる。 | ○引き続き毎朝の読書や読み語り、ストーリーテリングや並行読書など、様々な機会を通じて読書に親しむ環境づくりをしていく。また、家庭での家読の充実を図る。 | | | |
| 連携 | 檜山 連携プロジェクト ① ふるさと教育の推進 ② 家庭・地域との連携 ③ 保幼小中連携 ④ 地域学校運営理事会 PTA活動の充実 | 檜山に愛着と誇りを持ち、進んで地域の活動に参加する。① | ふるさと学習を通して檜山のひと・もの・ことのよさにふれさせ、さらに地域の行事への積極的な参加を呼びかける。 | ◎ | ○ | ◎ | 地域の行事にも進んで参加しており、檜山の人やものの良さも感じていると思われるので、概ね達成できている。 | ○今後も、ふるさと学習の充実を図り、地域行事への参加を呼びかける。 ○統合も踏まえ、地域との連携を図りながら、PTA活動や行事の精選、子どもにとって有効的な活動になるようにふるさと教育と研究との関連を図る等の取組を行っていく。 | ○地域との連携は申し分ない。 ○コミセン主催の行事にも、児童は積極的に参加している。地域の一員としての役割を果たしている。 ○外部から見ても児童が熱心に取り組んでおり評価できる。 △保護者の評価が低いことに対し、改善策が必要である。 ・今は地域のおじさん、おばさんとの交流が多いですが、もっと若い大学生や高校生のボランティアの方達との遊びや学び、遊びや学びをふれあいを通しての学ぶ身近な存在も必要だと思う。 ・統合した後子ども達のふれあいをどう関わっていくか。皆で考える必要があると思う。 ・卒業後不登校にならないためにも中学校との連携を更に図ってほしい。 |